

提案コンセプト

アート県 青森！そして“世界の弘前へ”
-赤煉瓦倉庫の魅力を未来へ繋ぐクリエイティブハブ-

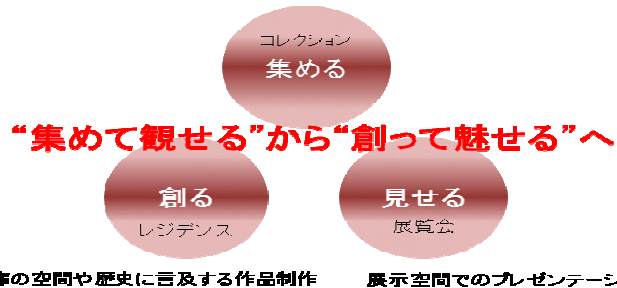
【基本理念とミッション】

- 1 先進的な国内外のアートの紹介の場
- 2 現代の科学技術やデザインの発展を若い人々とシェアする事が出来るクリエイティブハブ
- 3 地域の住民がアートやデザインの事を学び、また集うコミュニティのための場
- 4 所蔵品、レジデンス事業、企画展の三つの機能をつなぐ基盤

運営概要

21世紀型コレクション：“創って、魅せる”コレクションへ
創造・更新する21世紀型コレクションでは、企画展とアーティスト・イン・レジデンスを有機的に連動させ、よりダイナミックな事業展開を目指します。

創造・更新型作品収集方法の確立



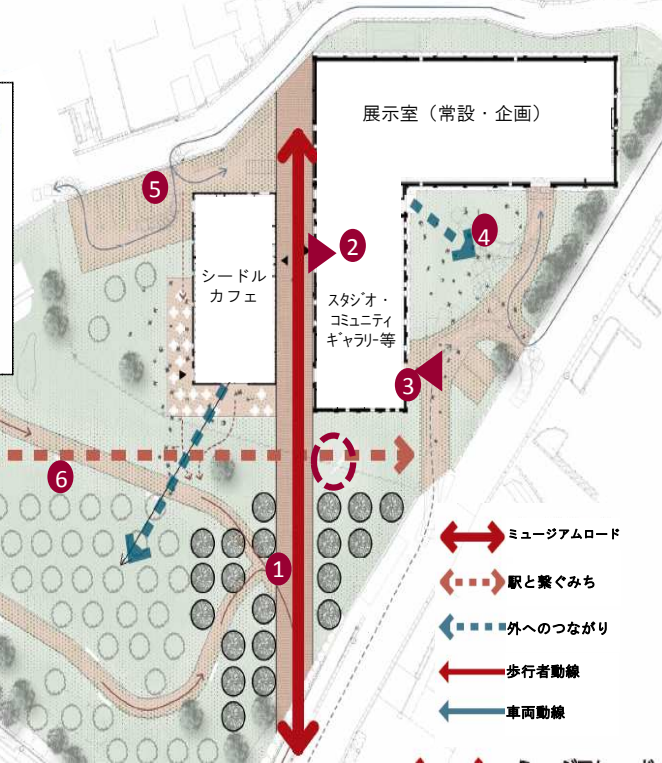
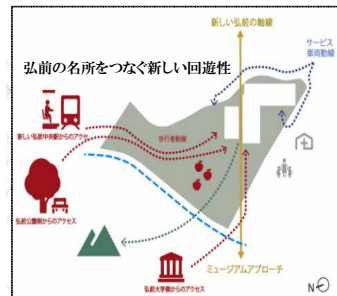
空間活用の考え方 (3つのキーワード)

1. サイトスペシフィック (場所性)
煉瓦倉庫の魅力を再評価・強調しながら、適切な広さや高さなど、展示空間としての新たな機能を最大限付加します。
2. タイムスペシフィック (時間性)
既存の時期ごとのイベント等と連動したプログラムのほか、冬季の劇場的運用など、季節や時間に合わせた運用を行います。
3. パブリックファースト (公益性)
アートが地域の産業や文化と結びつき、多様な交流や価値観の拡がりをもたらすよう、人々が集うコミュニティ空間を提供します。

作品収集に対する考え方

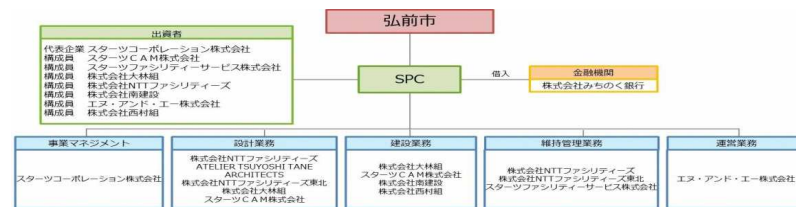
- 1 赤煉瓦倉庫の建築と対話し、新たな創造性を喚起する作品
- 2 弘前市および東北地域の自然、歴史、物語を素材とし、あるいは対話する作品
- 3 人々に現代における新たな創造性を喚起させる先端的な作品

施設概要 (配置図)



- 1 ミュージアムロード
 - 2 ミュージアムエントランス(夏の玄関)
 - 3 パブリックエントランス(冬の玄関)
 - 4 屋外イベント・展示が可能な中庭
 - 5 駐車場・駐輪場
 - 6 パークアベニュー
- ミュージアムロード (赤い双方向矢印)
 駅と繋ぐみち (赤い点線)
 外へのつながり (青い点線)
 歩行者動線 (赤い矢印)
 車両動線 (青い矢印)

実施体制



◎デザインアーキテクト(建築家)
ATELIER TSUYOSHI TANE
ARCHITECTS

たね つよし
田根 剛 1979年生まれ。パリ在住



「“場所の記憶”を掘り起こす」を設計ポリシーとし、エストニア国立博物館などの設計を手掛ける。平成28年度文化庁芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

◎美術館総合アドバイザー
エヌ・アンド・エー株式会社代表

なんじょう・ふみお
南條 史生
1949年生まれ。慶應義塾大学卒業。

2006年より森美術館館長。第47回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッションナー(97年)、第1回横浜トリエンナーレアーティストック・ディレクター(01年)、茨城県北芸術祭ディレクター(16年)等を歴任。

附帯事業

- ・ミュージアムカフェとシードル工房
- ・ミュージアムショップ

